

# 紀伊半島南東沖の微動活動(2020年12月-2021年1月)

- ・2020年12月6日より紀伊半島南東沖で顕著な微動活動.
- ・二度の高速逆伝播 (Rapid Tremor Reversal: RTR) を伴いながら活動域を南西に拡大.
- ・1月21日頃に大規模な活動は一度停止, 1月26-29日に再び小規模な活動.

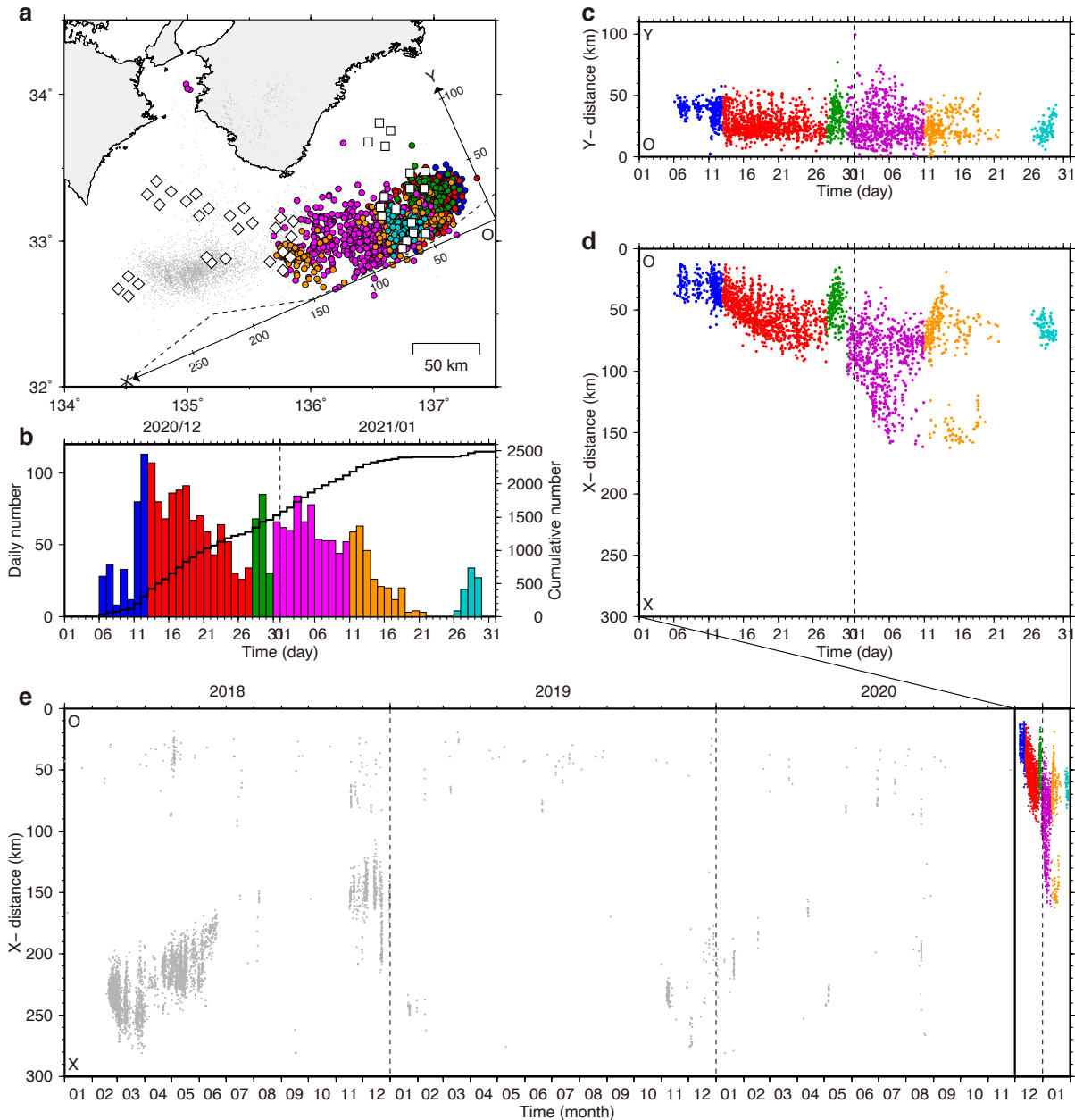


図1：微動の時空間分布。(a)震央分布。色は期間に対応(b参照)。2020年11月以前(2018年1月から)の微動を灰色の点で示す。□◇はそれぞれ DONET1, DONET2 観測点。点線は海溝軸。微動の検出・震源決定にはエンベロープ相関法コード(Ide, 2010; Ohta et al., 2019)を用い, DONET1 および DONET2 の水平2成分速度波形(2-6Hz)を使用。検出されたイベントの内, 継続時間20秒以上, 震央誤差10km以内, 群発条件(1日&20km以内に4イベント以上)を満たすものを微動として採用。DONET1 から DONET2 東端の領域にかけて活発な微動活動。(b)検出数の日別ヒストグラムと累積。2020/12/6-2021/1/21 に大規模な活動があり, 2021/1/26-2021/1/29 に小規模な活動。(c)震央の時空間分布。傾斜方向(Y軸)に投影。(d)走向方向(X軸)に投影。RTRを伴いながら南西へ拡大。(e)2018年1月-2021年1月の全微動の時空間分布(X方向投影)。2018年に紀伊水道沖で大規模な活動。